事務局便り

令和７年 12 月 10 日

―令和７年度春期研修会 ハイフレックス型開催のご案内―

春期研修会の詳細が同封のチラシのように決まりました！

勝田映子先生は、長年にわたり筑波大学附属小学校で家庭科のご指導とご研究をされていました。研修会の打ち合わせをしましたところ、様々な便利な用具を使い子供たち自身に気づきを与える授業の工夫をされていました。住生活学習の内容ではありますが、チラシにご説明いただいたように、**「PBL 型」「オリエンテーリング方式」**と授業方法について参考になる内容で、他の領域にも生かせることができるでしょう。

今回は、打ち合わせの結果、午後のグループワークをオンラインで取り組むことは難しいことがわかり、オンライン参加の方には、会場での様子と最後の発表場面を視聴していただくこととしました。そのため、参加費を会場とオンラインで差をつけました。そして、**会場は 30 名上限の先着順**ですので、どうぞお早めにお申し込みください。なお、いつもの通り、申し込みは、「Google フォームの入力→参加費の振り込み」で完了となります

年度末のお忙しい時期ではありますが、多くの先生方のご参加をお待ちしております！

令和８年３月 27 日（金）　10:10～16:00
テーマ：PBL 型で進める住生活学習
講　師：元 帝京大学 教授　勝田映子先生
会　場：家庭クラブ会館２階　オンライン：Zoom
参加費
会　員：会場参加 2,000 円　オンライン参加 1,000 円
未会員：会場参加 3,000 円　オンライン参加 1,500 円
学　生：会場参加 1,000 円　オンライン参加 500 円

―令和１０年度第７８回研究大会 研究発表者を募集しています！―

ZKK 機関誌家庭科３号に同封したチラシをご覧になりましたか？

第 78 回の研究発表者を募集しております。まだ、応募者がありませんが、本年度末の３月末日が応募締め切りです。自分のやってみたい授業実践研究を２年間かけて行い、その成果を研究大会で発表してみませんか？毎年研究発表者には、ライオン賞として資料代一人６万円程度のお渡しもあります。詳細は、本協会ホームページにも掲載しております。

なお、令和９年度第 77 回大会の公募では、小中高関連の発表者を〆切を延ばして募集しましたが応募者はありませんでした。第 77 回大会は、別時程での開催を検討しています。

関連の研究は、一人ではできませんので難しいとは思いますが、今こそ、小中高等学校の関連を図った授業について研究を進めることが求められています。そして、第 76 回までは、研究主題を本協会で決めておりましたが、発表者自らが研究主題を決めて取り組むように変更しました。地域の学校の先生に声をかけるなどして、自分たちが決めた課題を解決・追求するチャレンジをしてみませんか？小中又は中高の関連でも構いません。第 78 回は、関連の発表者が出ることを祈っております。

―令和８年度　第 76 回研究大会　講演及び校種別研修会　講師決定―

前号でもご案内の通り、次年度の研究大会は、以下の日程・講師で開催いたします。予定を入れておいて、ぜひご参加ください！

日程：令和８年８月４日（火）　５日（水）の２日間
方法：ハイフレックス型開催　　会　場：家庭クラブ会館２階
日程：４日（火）午前-小中高関連の研究発表・講評　昼休み-理事会
午後-総会、講演　美馬のゆり先生
５日（水）午前-小中学校及び高等学校の研究発表　午後-校種別研修会
講師：小中学校部会　群馬大学 中里真一先生
高等学校部会　厚生労働省年金局　菊地英明様

―中学校技術・家庭科の分離問題について ZKK の活動―

本協会の HP では、随時お知らせしておりますが、「中学校の家庭科分離独立問題」に関してアンケート調査及び要望書の提出を行っております。10 月 2 日に第 1 回家庭ワーキンググループが開催されましたが、中学校の技術・家庭科の分離問題について十分に取り上げられなかったことから、緊急に「中学校の家庭科分離独立問題に関するアンケート調査」を実施いたしました。その結果、技術・家庭科が分離することは賛成しているが、中 3 の授業時数が現行のままでは少なすぎて、保育体験学習ができない、評価が困難、教員配置が心配などの意見が寄せられました。そこで、中教審の家庭ワーキンググループをはじめ教育課程企画特別部会及び総則・評価特別部会の委員の先生方へ授業時数全学年 35 時間と人事面の要望書を作成し送付しました。以下の方には、機会をとらえて、説明、手渡しをしました。

【面会して説明した委員の先生方】
10 月 16 日　杉山久仁子様（家庭 WG 主査　横浜国立大学教育学部教授）
10 月 23 日　鈴木基代様（家庭 WG 委員　公益財団法人消費者教育支援センター専務理事）
10 月 28 日　文部科学省初等中等教育局教育課程課　髙見英樹様　嶋田孝次様
10 月下旬　亀田香利様（家庭 WG 委員　石川県能美市教育委員会事務局次長兼学校支援課長）
11 月　5 日　全国中学校技術・家庭科研究会札幌大会理事会にてアンケート結果配布
11 月 17 日　貞広斎子様（総則・評価特別部会主査　千葉大学副学長・教育学部教授）
11 月 18 日　石島恵美子様（家庭 WG 主査代理　茨城大学教育学野教授）
11 月 20 日　村上律子様（家庭 WG 委員　文京区立青柳小学校長 全国小学校家庭科教育研究会副会長）
11 月 22 日　石井英真様（総則・評価特別部会主査代理　京都大学大学院教育学研究科准教授）
11 月 25 日　青海正様（総則・評価特別部会委員 大田区立志茂田中学校長 全日本中学校長会会長）
11 月 25 日　大友佳子様（家庭 WG 委員　金融経済教育推進機構理事）
11 月 25 日　西原直枝様（家庭 WG 委員　日本女子大学家政学部被服学科准教授）
11 月 27 日　渡瀬典子様（家庭 WG 委員　東京学芸大学教育学部教授）

委員の先生から「家庭科の学習内容が今の子供たちにとって必要でそのためには授業数が必要という議論にならないといけない」と鋭いご指摘をいただきました。家庭科の学習内容の重要性は私たちにとっては当たり前のことですが、そのことを熱く議論することが求められているようです。授業時数が沢山あったら、調理実習も幼児ふれ合い体験もしっかりできただろうし、その他の領域でもゲストティーチャーを入れての授業など子供たちの記憶に残る、そして生きていくための自信につながる授業ができただろうと振り返って何とも言えない気持ちになっています。この件に関しては、本協会の HP にすべて掲載しております。